

～健康なまち行動計画策定にむけて

『ウェルネス・アクションつる』がスタート！

平成11年度主要事業として「グリーン・アクションつる」に積極的に取り組んでいますが、生活者主体のまちづくりプラン第2弾として、健康で豊かさを実感できるまちづくりの実現をめざして「ウェルネス・アクションつる」～健康のまち行動計画の策定に取り組みます。計画では高齢社会への対応や健康づくり、保健福祉などの総合的な推進計画の位置付け、高齢者の生きがいづくりの促進など様々な視点から取り組みます。

その第一歩として9月14日には第1回市民懇話会がYLO会館で開催されました。市民20名に委嘱状が交付された後、都留文科大学の中村陽一助教授や明治生命厚生事業団、荒尾所長からの助言を生かし、「地域でどんなふうに暮らしてきたか、様々な体験を通してどんな思いで生活しているか」など、まちづくりのための意見交換が活発に行われました。



率直な意見が出され、有意義な懇話会となっています

ウェルネス・アクションつる(健康のまち行動計画)とは…

子どもから高齢者まで誰もが健康で暮らし、幸せと豊かさを実感できる、市民参加による快適な健康文化都市をめざします。

生活の質の向上を目的に、「人の健康」「社会の健康」「まちと自然の健康」と幅広く考えながら、市民と行政と企業と学校が一体となって「健康のまちづくり計画」策定を進めていき、具体化させていこうとする事業です。

「健康ってなあに？」と尋ねると…

年代や人生観によって人それぞれです。
単に「病気でないこと」「長生きできること」ということだけでなく、生活の質～より楽しく、自由で幸せに生活する～を追求するために、その様々な健康観についてのプランづくりが求められています。
そして、そのことが「健康なまち」をつくっていくのです。



健康なまちとは…

- ・寝たきりの人が八朔祭りを見に行ける
- ・おばあちゃんから昔話を聞いている
- ・近所の公園で子ども達がどろんどろん遊びをしている
- ・きれいな川で魚釣りができる など
- ・車椅子で商店街に買物にいける
- ・おじいちゃんに竹とんぼを作ってもらっている
- ・気軽にデートできる場所がある

これらを実現するには様々な条件が必要です。たとえば、寝たきりの人が八朔祭りを見に行くには、家族以外の人の手を借りなければならぬかもしれません。道路の段差があつては車椅子は通れないかもしれません。ほかの観客も快く見る場所を提供してあげなくてはなりません。このような条件整備をするためには、広く「健康」を捉え、文化、教育、福祉、環境なども考慮しなくてはなりません。

生活者としての市民の皆さんのアイディアを活かし、行政の施策へと反映していくことが必要と考えています。そのために、市民懇話会と庁内ワーキンググループを設置し、市民と行政がともに考え計画づくりを進めていきたいと思っています。

※なお、ウェルネスアクションについてはシリーズで掲載していきます。

ウェルネスアクションに関するご意見をお待ちしています。

問合先 健康推進課 保健指導担当